

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	シルビアンゆらら		
○保護者評価実施期間	令和 7年 3月 12日		～ 令和 7年 3月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 12日		～ 令和 7年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的なケアが必要なケアを含め、個々に応じた支援を行っている。	医療的ケアが必要な子どもも含め利用児童全員子ども達の遊びや関わりを重視して、子ども達みんなが同じ時間に同じ場所で活動できる様に医療的ケアの時間や方法について常に検討して家族や関係機関と相談調整を行っている。	子ども達の成長や状態の変化に伴い柔軟にケアの対応ができるように、さらに家族や関係機関との関わりを密に持つ。
2	家庭的な雰囲気の中で、子ども達がのびのび過ごし、家族が出入りしやすい雰囲気。 送迎や来所、退所時等、お便り帳、通信を通じて子ども達の日頃の様子を細かく伝え、家族と一緒に子ども達の成長や課題を共有できる様に配慮している。	職員間で情報を共有して、家族の子育てのサポートを行う。 活動中の子ども達の様子を色々な場面で撮影し、撮り貯めて通信やLINEを活用してお知らせする事で、日頃の子ども達の様子が見られる様に配慮している。	家族の困りごとに対して、トータル的にサポートできる様に日頃から相談支援専門員と関わり、幅広く対応できるようにする。また、育児やケアに関しての相談の役割がある事を家族に周知する。
3	法人内で年間を通じて様々なテーマの研修が職員全体を対象として行っており、知識を深め支援に活かす事ができる。	なるべく多くの職員ができるように勤務の調整を行っている。 参加ができなかった職員の為に、受講した職員から直接伝達研修を行う事によりさらに理解が深まるように工夫している。	さらに幅広い内容の研修が実施できるように努める。 また、職員の研修だけではなく、保護者に向けた研修の開催も今後検討したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーの環境ではないためバギーを使用する児童の移動に工夫が必要。	元々住居として使用していた建物を活用している為、バリアフリーの環境が整っていない。	室内の低い段差にはスロープを付け、内階段には手すりをつけて過ごしやすい環境を整えている。 外の階段は福祉用具の業者に相談中。
2	コロナ禍前には、定期的に保護者の集まり情報交換をする「お茶会」の開催や、法人全体で行っていた保護者参加型ピーチパーティーがコロナ禍移行実施をしていない。 保護者同士が関わる機会が少なくなっている。	新型コロナウイルス感染防止対策により、人が集まるイベントの企画が滞ってしまった。	保護者交流の機会の意味合いをふくめて、運動会を保護者参加型にして実施している。 今後は、保護者の要望を取り入れて、保護者参観や滞っている「お茶会」の開催を検討している。
3	非常災害時の対応方法の周知が十分でない。	担当者会議等で個々の非常災害時についての話し合う機会があったが、保護者と事業所間での災害時対策の情報交換が不足しており、事業所から訓練についての発信も十分ではなかった。	家族と避難方法についての詳細について再度確認して計画に基づいた非常災害時の訓練の様子も保護者向けに発信していく。